報告

児を出産後入院中の母親に対する 予防接種の説明会の試み

安齋 祐子1,2), 成宮 正朗1)

[論文要旨]

近年予防接種制度は大きく変化しており、予防接種の接種率の向上には正しい情報提供が大切である。従来、当院では1ヶ月児健診時に個々に予防接種の説明をしていたが、2012年12月より児を出産のために入院した母親全員に集団で説明をするように変更した。その説明会は、母親たちにとって予防接種を知る良い機会となり、当院でのワクチンの接種率および任意接種のワクチン接種率の向上につながった。児が適切な時期に必要なワクチン接種を行うには、予防接種の情報提供を早期に行い、医師のみでなく看護師や事務など予防接種に精通したスタッフを育成する必要がある。

Key words: ワクチン,予防接種説明会,出産後入院中の母親

I. はじめに

予防接種に関しては、ロタウイルスワクチン(RV)の導入、B型肝炎ワクチン(HBV)の接種推奨、2013年4月からのヒブワクチン(Hib)、肺炎球菌ワクチン(PCV)、子宮頸がん予防ワクチン(HPV)の定期接種化、2013年11月からの肺炎球菌ワクチンの7価(PCV7)から13価(PCV13)への変更など日本の予防接種制度は日々めまぐるしく変化しているが、それらの予防接種に関する情報を児の保護者に伝える時間や機会は限られている。当院のある長浜市では、新生児訪問時に簡単に予防接種について話があった後は、各医療機関での対応に任されている。当院では1か月児健診時に短時間で任意接種について重点をおき個々に簡単に説明するのみであった。しかし、1か月児健診の場では時間が短く、児の啼泣、他の育児相談などで十分な説明時間がとれないことが多い。特

に児が第1子の場合、母親たちは1か月児健診の時点で予防接種の一般的な知識、予防接種の開始時期、予防接種制度の変更、任意接種のワクチンについてほとんど情報を得ていないことが多かった。そこで当院では、児を出産後当院に入院中の母親たちに対して予防接種についての情報を提供する説明会(予防接種説明会、以下、説明会と略す)を行う試みを開始した。今回はその成果と今後の課題について検討し報告する。

Ⅱ.目 的

児を出産後早期に説明会を行うことでワクチンの接種時期や接種率にどのような影響があるのかを検討した。

Ⅲ. 対 象

2012年12月~2013年5月に当院にて在胎33週以上で 出産し、1か月児健診で受診した190人の母親。

A Trial to Do Briefing Session of Vaccination for Mothers Who Are in Hospital after the Delivery Yuko Anzai, Seiro Narumiya

受付 13.11.25 採用 14.5.3

[2580]

1) 長浜赤十字病院(医師/小児科)

2) 用賀アーバンクリニック (医師 / 小児科)

別刷請求先:安齋祐子 用賀アーバンクリニック 〒158-0097 東京都世田谷区用賀2-41-17 1, 2F

Tel: 03-5717-6331 Fax: 03-5717-6332

Ⅳ. 方 法

当院の産科病棟の助産師および看護師に協力を依頼 し、出産のため入院中の母親に説明会に参加しても らった。原則全員参加であるが、体調不良などで参加 できなかった母親には資料を渡して、後日退院前の 新生児回診時に回診担当の小児科医師が個別に説明 を行った。説明会は、産科病棟で週に2回、30分程 度, 当院小児科医師が行った。資料として, 著者が作 成した予防接種の基礎知識、生後12か月未満で接種が 開始されるワクチン (Hib, PCV, RV, HBV, DPT-IPV. BCG) に関する資料、予防接種スケジュール表、 任意接種(RV. HBV) に関する詳しい説明資料を添 付して使用した。入院中に説明会に参加し、2013年1 ~6月の間に1か月児健診で当院を受診した児の母親 に簡易なアンケートを施行した。説明会の印象および 感想を聞き、当院で1か月児健診を受診し、その後予 防接種を受けた児42人に関して、説明会開始前の2012 年7~12月の6か月間の31人と比較して、初回予防接 種の予約時期、接種したワクチンの種類の変化につい て検討した。

倫理的配慮に関しては、予防接種の説明会を行う際は、参加は基本的に全員参加としているが、参加しない場合でも説明を希望された場合は個別に小児科医師が説明し、説明を希望されない場合にも資料は渡して対応し、不参加が不利益にならないように配慮した。アンケート施行の際は、氏名、生年月日、住所など個人を特定する情報は無記載とし個人情報の保護に配慮した。本研究は、長浜赤十字病院医療倫理委員会の承認を得た。

V. 結 果

2012年12月~2013年5月までに当院で児を在胎33週以上で出産した216人に説明会を施行した。母親は児を出産後1~7日であったが、説明会中に体調不良を訴える母親などはなく、問題なく説明会を行うことができた。その中で当院外来で1か月児健診を受けた190人中、95.8%(182人)よりアンケートの回答を得ることができた。説明会の印象としてはよかったと答えた母親が90.1%であり、どちらでもないと答えたのは9.9%であった。説明会を必要ないと答えた母親はいなかった。当院で予防接種を受ける児の割合は説明会の施行により説明会施行前と比較して12.2%から

22.1%に増加した(図1)。初回予防接種の予約時期は 1 か月児健診当日までに済ませた児の割合が、当院で 接種した児の32.3%から76.2%に増加した(図2)。ま た予防接種の種類に関しては通常生後2か月で接種開 始する Hib, PCV, HBV, RV について検討したが、 説明会開始前に任意接種を含むすべてを接種した児の 割合が3.2%だったのに対して、説明会施行後は61.8% まで増加した。特に HBV に関しては説明会施行前に は3.2%だったが、説明会施行後は76.1%まで増加した (図3)。母親の感想の中で、説明会が有用とする意見

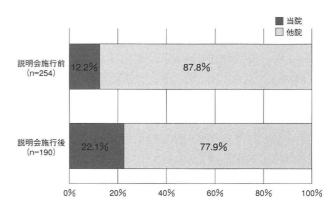


図1 予防接種をした医院の変化

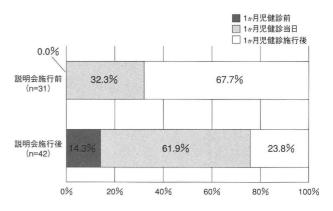


図2 初回予防接種の予約時期

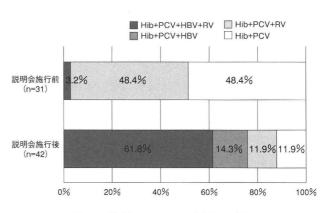


図3 接種ワクチンの種類の変化

には、「予防接種について知らなかったことなどを知る良い機会だった」、「予防接種について混乱していた情報を整理することができた」、「上の子どもの時と制度が変わっていて驚いた」などという意見が多かった。今後の改善が必要な点への意見としては、「時間が短いあるいは、内容が難しくてわからなかった」、「実際にスケジュールをたてて欲しかった」、「児のみでなく児の兄弟や姉妹の予防接種についても聞きたい」、「経産婦なので予防接種の情報は知っていた」などの意見があった。

VI. 考 察

2011年11月の RV 導入. 2012年から日本小児科学 会による HBV の接種推奨, 2013年 4 月からの Hib. PCV の定期接種化、2013年11月からの PCV 7 から PCV13への変更など予防接種制度は日々変化してい る。日本小児科学会ではワクチンで予防できる疾患 (VPD; Vaccine Preventable Disease) から守るため に、ワクチンは必要な回数を早期に接種することが大 切としており、そのためには同時接種を一般的な医療 行為として行うべきであるとしている」。日々の診療 では、母親たちからの質問としては、「予防接種があ るのは知っているが具体的なことがわからない」、「予 防接種は必要か?」、「副反応が怖い、副反応が起きた らどうするか?」、「風邪をひいた時や薬を飲んでいる 時に予防接種ができないのか?」、「なぜ今は同時接種 が推奨されるのか?」などが多く、予防接種の基本的 な知識を得る場がないことがうかがえる。安藤は、多 くの保護者の予防接種の情報源は、「一般診療」や「友 人からの口コミ」に頼っているとし². Pineda らはワ クチンの普及により VPD が減ったことで両親の VPD への危機感が薄まっており、ワクチンについてはそ の効果や安全性に関する情報のなさが頻度の低い副 反応を恐れる原因となっていると報告している3)。更 に、Smithらは、予防接種の接種遅れの最大の原因と して1番は副反応や効果に対する疑問. 2番は子ども の病気であるとしている4)。このため、予防接種がな ぜ必要か、予防接種で防ぐことのできる疾患 (VPD) にはどのような疾患があるか、どのような副反応があ るか、どのような場合にワクチン接種を控えるべき か、予防接種を早期に開始することの意義、同時接種 を行うことの重要性、有用性、安全性について正確な 情報提供を行うことが重要とされている50。伊佐治ら

は、1か月児健診時に生後2か月からの予防接種スケ ジュールを提示し予約を促すことにより生後2か月か ら予防接種を開始する児が増え, 更に第1子が接種を することは次子の接種行動にもつながると報告してい る⁶⁷⁾。これらのことより、具体的に予防接種に関して 説明会を施行することは、今回出生した児のみでなく その兄弟や姉妹の予防接種の正確な情報の提供と、予 防接種への関心を高めること、早期のワクチン接種の 実現などに効果的であると考える。説明会の時期に関 しては、妊婦を対象とした母親学級など8.9 や、1か月 児健診6などの報告もある。しかしわれわれは、出産 後入院中に説明会を施行することで、児を一時的に預 かる体制が整っている、上の子どもを預かってもらう ことや移動手段などの子ども連れでの外出に関わる手 間がかからない、母親の体調に関しては助産師、看護 師により医学的に判断が可能であることなどから出産 後の入院中に行うことによる利点が多いと考える。

説明会で母親より要望の最も多かったことは個別のスケジュール作成や細かい疑問点などへの対応であった。Merglerらは、予防接種の効果や有用性を広め、ワクチンの接種拒否や接種遅れを減らしていくには、なによりも医療従事者と両親との信頼関係が大切であると報告している。またワクチンの情報は医療従事者から得たいという両親がほとんどであり、そのため、ワクチンに関しては特に医師のみでなく予防接種に関わるすべての医療従事者が正確な最新の情報を把握している必要がある³¹¹¹。医師同士の情報の確認や医師以外のスタッフの教育や指導は今後の一番大きな課題である。

説明会の対象者については、経産婦からは「上の子がいるから」などの理由で参加を希望されない母親もいたが、経産婦にこそ予防接種の制度が変化し、上の子どもと今回の子どもでは接種状況が違うことを理解してもらう必要がある。出生直後から兄弟や姉妹とふれあうことになる児には早期の予防接種が望まれる。との報告もあり今後も全員参加での説明会を続けていきたい。

当院のみで、これらの説明会を施行し、実際に児のワクチン接種を行うことには限りがある。今後は新生児訪問を行っている保健師や産科医院などの協力も要請して地域全体で説明会を開催し、地域で予防接種を施行している医院やクリニックに関する情報も併せて提供していきたい。更に、最近では Twitter などを含

むメディアを利用することが予防接種の啓蒙に効果的であるとの報告¹⁰⁾がある半面、ワクチンの接種を拒否する、あるいはワクチン接種が接種スケジュールから大幅に遅れるといった例では、その根拠となる情報を医師など医療従事者からではなくインターネットやメディアや書籍より得ているとの報告もある^{4,11,12)}。このような決定をする親は妊娠早期よりワクチンに興味を持ち、より多くのワクチンの情報を収集したいという要望がある。その要望に応えるためにも、予防接種に関する情報はより早期に、正確に、等しく、頻回に、効果と副反応両方の情報を提供できるかが接種率を上げるのに重要である¹³⁾。このため、早期に説明会を行うことの必要性はもちろん、医療機関からすべての児を対象に予防接種の情報を発信する場を増やしていくことが大切だと考えた。

VII. 結論

- 1) 2012年12月より予防接種説明会を母親が児を出産 後の入院中に行い、その成果を検討した。
- 2) 説明会の評価は90%以上が良いとしていた。
- 3) 結果として.
 - ①説明会の施行により予防接種の予約時期は早まり,適切な時期に予防接種を開始することが可能となった。
 - ② RV, HBV など任意接種のワクチンの接種率が 向上した。
 - ③1 か月児健診では、育児相談に専念することが可能になった。
 - ④説明会は同胞の予防接種に関しても見直す機会と なった。
- 4) 今後の課題として.
 - ①予防接種の基礎知識、スケジュール、予防接種 制度の知識に精通したスタッフの育成が急務であ る。
 - ②更に多くの母親に対して予防接種に関する知識を 深める機会を増やしていくために、当院のみでな く近隣の産科医院や新生児訪問をする保健師など とも連携して説明会を行う場や機会を増やしてい く必要がある。
 - ③現在は生後6か月までの乳児期を中心としているが、すべての年代に向けた説明会の開催も今後検討する必要がある。

本論文は第60回日本小児保健協会学術集会(2013年9月)において発表した。

利益相反に関する開示事項はありません。

文 献

- 1) 日本小児科学会. 日本小児科学会の予防接種の同時接種に対する考え方. < http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/saisin_1101182.pdf > (2012. 11. 08確認)
- 安藤由香. Hib ワクチン及び小児肺炎球菌ワクチン接種に関しての保護者への質問紙調査と今後のワクチンのあり方の検討. J Natl. Inst. Public Health 2012;61(5):492-493.
- 3) Pineda D, Myers MG. Finding Reliable Information About Vaccine. Pediatrics 2011; 127: s134-s137.
- 4) Smith PJ, Humiston SG, Parnell T, et al. The Association Between Intentional Delay os Vaccine Administration and Timely Childhood Vaccination Coverage. Public Health Reports 2010; 125: 534-541.
- 5) 岡田賢司. ワクチンの現状と課題. Medical Tribune 9 2012; 27; 16-17.
- 6) 伊佐地真知子, 二井立恵, 二井 栄, 他. 生後2か 月からのヒブ(Hib) ワクチンおよび肺炎球菌ワクチン(PCV7)接種率向上への取り組み一第1報 無 料化前を中心として. 小児科臨床 2013;66(7): 1613-1618.
- 7) 伊佐地真知子, 二井立恵, 二井 栄, 他. 生後2か月からのヒブ (Hib) ワクチンおよび肺炎球菌ワクチン (PCV7) 接種率向上への取り組み一第2報 無料化後の検討. 小児科臨床 2013;66(7):1619-1624.
- 8) 森田幸江,青木久美子,矢萩智子,他. 定期予防接種に対する効果的な指導のあり方について. 小児看護 2005;36:131-133.
- 9) 竹内理恵子. 【施設や地域での取り組み事例】産科診療所における助産師による予防接種の支援. 助産雑誌 2013;67(6):462-465.
- 10) Stockwell MS, Fiks AG. Utilizing health information technology to improve vaccine communication and coverage. Human Vaccines & Immunotherapeutics 2013; 9 (8): 1–10.
- 11) Wheeler M, Buttenheim AM. Parental vaccine concerns, information acurce, and choice of alternative immunization schedules. Human Vaccines & Immu-

- notherapeutics 2013; 9 (8): 1-8.
- 12) Mergler MJ, Omer SB, Pan WKY, et al. Association of vaccine-related attitudes and beliefs between parents and health care providers. Vaccine 2013; 31:4591-4595.
- 13) Glanz JM, Wagner NM, Narwaney KJ, et al. A Mixed Methods Study of Parental Vaccine Dicision Making and Parent-Provider Trust. Academic Pediatrics 2013; 13 (5): 481-488.

(Summary)

Recently Vaccination is changing day by day and correct reporting enlightenment is important for the improvement of the inoculation rate of the vaccination. We had explained the vaccination at the time of medical examination individually conventionally in our House

for one month, hence we changed it to explain a child to all mother hospitalized with delivery in a group from December, 2012. It was a good opportunity to know the vaccination for mother, and the briefing session was connected for the improvement of an inoculation rate of the vaccine in our hospital and the vaccination rate of the option inoculation. We perform the reporting of the vaccination early to give vaccination necessary for the time when a child is appropriate, and it is necessary to bring up the familiar staff for a vaccination including not only the doctor but also a nurse and the office work.

(Key words)
vaccine, briefing session of vaccination,
mothers hospitalized with delivery